opusdei.org

属人区長の書簡 (2012年1月)

オプス・デイ属人区長は、過去に対して神に感謝し、新しく始まった年を希望を持って見るように招きます。

2012/01/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

昨日、平和の聖マリア属人区教会 で、顕示台のご聖体を仰ぎつつTe Deumを歌い、至聖三位一体に、過 ぎたばかりの一年間に頂いた数々を を感謝した。教皇様とりした。教皇はとの を感謝さん一人たちとのしました。 を感じました。創立とのない協力者でを がはました。創立とので見たのでも を感じまれるがいるです。 を感じまれるがいるです。 をがいました。 を見たのです。 をがいました。 を見たのです。 をいいまれたのです。 をいいまれたのです。

常にですが、特に降誕節中は、第一に主イエス・キリストが人として天 生まれになったことを通して天に熱 心に感謝を捧げるのは当然です。こ の贈り物こそが、私たちを限りなら 愛し続け、絶えずそれを示しておられる神にいつも感謝し、神を賛美し れまするための不断の基礎だからで す。 新しい年を始めることは、この神の 愛の証しをより鮮明に意識する助け となるはずです。様々な時代の教父 や聖人たちは、キリストの降誕や、 永遠なる神が時間の内に入り込んで くださったこと、無限の御方が有限 な人間性をおとりになって小さなも のになられたことを考え、驚嘆しま した。聖アグスティヌスは「これよ りも大きな神の恵みが私たちに現れ ることがありえたでしょうか| と自 問し、こう答えています。「実にひ とり子を人の子とならせることに よって、人の子を神の子としてくだ さる。これは人間のどのような功徳 に対して行われたのか、どういう原 因があったのか、どういう正義に のっとってなされたのかと尋ね求め ても無駄なことです。見いだせるの は、ただ神の恵みだけなのです。| [i]

しかも、神はこの贈り物を、一時的 あるいは特定の時代のためだけでは

なく、いつの時代のためにもお与え くださったことを考えると、私たち の驚きと感謝はいやがうえにも深ま ります。「永遠の方が、時間と空間 に縛られた領域に入って来られまし た。それは、『今日』、神と出会う ことを可能にするためです。降誕祭 の式文は、キリストが行った救いの 出来事が常に現実のものであり、す べての人にかかわることを理解する ための助けとなります。典礼の中で 『今日、私たちのために救い主が生 まれた』ということばを聞き、また 唱えるとき、私たちは空虚な慣用句 を用いているのではありません。む しろ私たちはこう言おうとしている のです。神は『今日』、今この時、 私たちに、私に、私たち一人ひとり に、神を知り、神を受け入れる可能 性を与えてくださいます。ベツレヘ ムの羊飼いたちに起きたのと同じよ うに。こうして神は、私たちの人生 の中にも生まれ、ご自分の恵みに よって、すなわちご自分の現存を

もって、それを照らし、造り変えて くださるのです。」[ii]

全人類と一人ひとりに対する神の慈 しみ深いご計画の光に照らして考え てみると、終わったばかりの昨年の 様々な出来事の真の意味を知ること ができます。健康や病気、失敗や成 功、幸せな出来事や痛ましい出来 事、幸運と思えることや不運と思え ること等々。創立者は、神に心を挙 げるよう励まし、このことを『道』 にこう書かれました。「毎日幾度 も、心を神に上げて感謝する習慣を 身につけなさい。神があれやこれや 下さるから。軽蔑されたから。必要 なものがないから、必要なものがあ るから。

ご自分の母であり、あなたの母でも ある方をたいへん美しくなさったか ら。太陽も月も、あの動物も、あの 植物も、お造りになったから。あの 人を雄弁にし、あなたを口下手にな さったから…。

すべてにおいて神に感謝しなさい。 すべては善いものだからである。」 [iii]

事実、世界には幾多の悲惨な出来事があり、苦しみがあります。多くの場所での戦争や暴力、世界の数多くの場所での病気や極度の欠乏、家族の分裂や家庭内の口論や国家間での論や国家間での論をもい。今、これらのことに加えて、幾多の国々が深刻な経済危機に見舞われており、多くの人が失業状態に陥っています。

ところで、なぜこのような状況に なってしまったのか理解できないと しても、信仰によって私たちはこう 確信することができます。現代は 「決定的で消すことのできない形 で、解放者である救い主キリストの 喜ばしい知らせを秘めています。

(…) 降誕祭は、幼子という謙遜で 弱い肉体をとられた神に再び出会わ せてくれます。そこに、私たちの日 常生活における僅かな時間や疲れを も救おうとしてくださる神とその愛 の現存を再び見出すようにという招 きがあるのではないでしょうか。困 難や苦しみの時もまた、私たち人間 の時が、主の恩恵によって、あるい は恩恵そのものである主ご自身に よって、絶えず豊かなものにされて いることを見つけるようにという招 きなのではないでしょうか。| [iv]

娘たち、息子たちよ、過ぎた一年に 頂いた数知れない恩恵を思い出い思恵を思い出る。 それを念祷における親密 の中で考えることができるでもるでもない。 私たちの個人的な弱さにも従っているが、オプス・ディの精神に従しまかっている もいことをました。他にものことを数え上げることを数え上げることを数え上げることをもました。 しまた一年、忠まのまました。 す。神に捧げ、人々に仕える精神で 実行した仕事による霊的な実り、神 の子たちの模範と使徒としての言葉 によって、人々が主との親しさを深 め、あるいは普段の生活の真の成り 立ちを発見したこと、新しい国で属 人区の信者による恒常的な使徒職が 始まり、また他の国ではそれが強化 されたこと、オプス・デイにおいて主 に従うという呼びかけを、主が世界 中で多くの人になさったこと、8月 に開催されたワールド・ユースデイ を通して、神が教会に起こされた 様々な霊的な道に従って、内的な深 い刷新や同心が実現され、全面的な 献身への召し出しがあったことなど です。他にも、個人的な生活、家庭 や社会にもたらされた多くの恩恵を 各人が見出し感謝すべきです。

果てしないこの展望を前にして、私 たちも、聖ホセマリアが特にその晩 年に幾度も唱えていた祈りをするこ とができるでしょう。Sancte Pater, omnipotens,

aeterne et misericors Deus, Beata Maria intercedente, gratias tibi ago pro universis

beneficiis tuis etiam ignotis 全能永 遠にして憐れみ深い神なる聖なる御 父よ、聖マリアの取次ぎによって、 御身からのすべての恵みに、知らな いことも含めて、感謝いたします。 [v] なぜなら、私たちが知っている よりも、知られずにもたらされた恩 恵の方が多いのは間違いないからで す。主が父なる御摂理によって私た ちを心身の危険から守ってくださっ たことを、誰が数えることができる でしょうか。この数ヶ月間に聖母が 私たちのためにかち得てくださった 恩恵を数えることのできる人がいる でしょうか。

それゆえ、絶えず感謝するよう努めることは、人間的にも超自然的にも

理にかなったことなのです。聖ホセマリアは年頭にあたって、次のように励まされていました。「Ut in gratiarum semper

actione maneamus! いつも全てのた めに感謝を絶やさないようにしま しょう。良いと思えることにも悪い と思えることにも、甘いことや苦い ことにも、黒いことにも白いことに も、小さなことにも大きなことに も、少ないことにも多いことにも、 この世のことにも永遠にかかわるこ とにも、感謝しましょう。過ぎた一 年に起こったことを、私たちの不忠 実さによってもたらされたことにさ え、感謝しましょう。なぜなら、そ れを認めて、ゆるしを願い、以後、 決して不忠実にならないように具体 的な決心をすることができたからで す。その決心は、私たちに多くの良 いことをもたらすでしょう。」 [vi]

今度は始まったばかりの新年に目を向けましょう。私たちが聖マリアと共に歩むなら、主が多くの恩恵を注いでくださるでしょう。教会が盛大に祝う神の母の祭日に、私たちの母なる方にそれを願いましょう。

降誕節は、最初のクリスマスの雰囲 気に浸りきるよう私たちを促しま す。馬小屋の前で、生まれたばかり の神の御子を愛情込めて細やかに世 話するマリアとヨセフを思い浮か べ、私たちは人々とどのように付き 合っているのかを糾明しましょう。 家族や友だちや同僚など、神が色々 な形で私たちに近づけてくださるす べての人たちと、どのように接して いますか。全ての人にとって私たち は、教皇様がクリスマスツリーの灯 りについて考察した際にお望みに なったように、キリストへと導く光 にならなければなりません。「私た ち一人ひとりが、自分の家族や職 場、地域や村や町に光をもたらすよ

うにしましょう。一人ひとりが傍らし、 の人の光となる自分のことだけを問ざして自分のことだきをして自己を表しているように仕向はをもったましまののことでもない。他のではなります。他の方はなります。他の方はなります。 でもいばいて、でします。 しばにします。 でもいばいるとでします。 「vii」

することができるのかを知るためには、父なる神の御力と恩寵が必要だからです。幼い子どものようになるとは、幼子のようにすべてを委ね、幼子のように信じ、幼子のようにお願いすることなのです。」[viii]

聖母以上に立派な先生が他にいるで しょうか。聖ガブリエルの言葉を耳 にした時、fiat mihi secundum verbum tuum! お言葉どおり、この 身に成りますように、と神のみ旨を 全面的に受け入れ、聖エリサベトが 聖霊に促されて叫んだように「主が おっしゃったこと | は全て成就され ることを固く信じました[ix]。カナ では、花婿のために、御子を固く信 じて「ぶどう酒がなくなりました」 と取次ぎ、僕たちには「この人が何 か言いつけたら、そのとおりにして ください」と主の指示を正確に果た すようお頼みになりました[x]。聖母 をもっとよく見つめ、もっと願い求 めましょう。

数日後の1月9日は、聖ホセマリアの 生誕110年にあたります。この記念 日を、信仰をもってその取次ぎによ り頼み、教会と人類のために願う機 会としましょう。特にオプス・デイと 世界中の娘たち息子たちが必要とし ていることを願い、私の意向のため の祈りを続けてください。皆さん全 員が、ことに身体的あるいは霊的に 聖ホセマリアが1939年1月9日の回覧書簡で子どもたちに示した、信仰に基づいた超自然的かつ人間的な励ましと楽観主義とを思い起こすためにも絶好の機会だと思います。それはブルゴス到着の一年後で、目前に迫ったスペイン内乱終結後のオプス・デイの使徒職の進展についての考えです。

「障害ですか。私は外的な障害にた じろぐことはありません。それを打 ち負かすのは簡単です。私が最も危 創立者の力強さとその名において皆さんに願います。父子関係と兄弟愛をよりよく実行してください。超自然的な私たちの家族の大黒柱であっての点を本気で心に掛けないるの二つの点を本気で心に掛けないまり、オプス・デイという建物に、なも見過ごすことが許されながるでしたがあることを入れることを、今一度皆さんに伝えます。〈Oremus pro unitate

apostolatus 使徒職の一致のための 祈り〉を唱えましょう。私たちは途 切れることなくそう生きるべきだか らです。

心からの愛情を込めて、この新しい 年に天からの素晴らしい贈り物を皆 のために願いつつ、祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2012年1月1日

[i] 聖アウグスティヌス、説教185 (PL 38,999)、『毎日の読書 -教会 の祈り・読書第2朗読-』1巻74頁。

[ii] ベネディクト16世、2011年12月 21日一般謁見の講話。

[iii] 聖ホセマリア、『道』 268番。

[iv] ベネディクト16世、2010年12月 31日、神の母マリアの大祝日前夜の 説教。

[v] 聖ホセマリア、1971年9月15日家 族の集まりのメモ。

[vi] 聖ホセマリア、1972年12月25日 説教のメモ。

<u>[vii]</u> ベネディクト16世、2011年12月 7日。

[viii] 聖ホセマリア、『知識の香』 143番。

[ix] ルカ1, 38; 45.

[x] ヨハネ2, 3; 5.

[xi] フィリピ1, 7-8.

[xii] 聖ホセマリア、1939年1月9日ブルゴス、回覧書簡: バスケス・デ・プラダ著『オプス・デイ創立者』第二巻 380頁。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2012nian-1yue/ (2025/12/15)